

令和3年度 第2回白馬村図書館協議会 議事要旨

日時：令和4年3月18日(金) 14:00～15:15

場所：白馬村役場 302 会議室

区分	氏名	所属	出欠
委員	富山 正明	白馬村社会教育委員長	○
	横川 秀明	白馬村公民館長	○
	岩崎 伸子	白馬北小学校	○
	篠崎 千恵	白馬南小学校	—
	山崎 英俊	白馬中学校	○
	高橋 英子	公募委員	○
	長島 律子	公募委員	○
	澤 清美	公募委員	○
	山下 慎司	公募委員	○
アドバイザー	篠田 尚利	県立長野図書館	○
事務局	松澤 宏和	生涯学習スポーツ課長兼図書館長	○
	松沢 由美子	白馬村図書館司書	○
	大坪 裕子	白馬村図書館司書	○
	大熊 大智	白馬村図書館司書	—
	山岸 由美	白馬中学校図書室司書	○
	海端 弥生	白馬北小学校図書室司書	○
	渡邊 宏太	生涯学習スポーツ課生涯学習係長	○

※事前に内容伝達・意見聴取

1. 開会

松澤生涯学習スポーツ課長兼図書館長が開会を宣言した。

2. あいさつ

(富山委員長)

今年は久しぶりに多くの雪に恵まれ白馬らしい景色になったが、ここに来て気温が上がって一気に雪が融けて春らしさを感じている。

新型コロナウイルス感染症の状況はなかなか落ち着かず油断ができない状況が続いている。図書館運営も影響を受けて評価が難しい状況であるが、議事に対して忌憚ないご意見

をいただきたい。

3. 会議事項

(1) 令和3年度の事業報告・利用状況等について

(事務局)

資料1「令和3年度白馬村図書館事業報告」に基づき事務局から説明した。

新型コロナウイルス感染症の対策として、感染警戒レベルに応じて座席の利用や新聞の閲覧、端末の利用を制限した。1月から2月にかけては入館もお断りし、予約による貸出サービスのみ提供した期間もあり、予約サービスを活用していただく機会になった。

季節や時事に応じた展示など例年の運営に加えて、雑誌の購入を再開して閲覧・貸出を開始したほか、イベントについても工作教室を開催した。

ブックオフと契約を締結し、寄贈を受けたが途中の巻がないものやリクエストがあったが通常の方法で購入できないものなどを中心に購入しているため、受入冊数(全体・YA)が多くなっている。

外国語資料は、書庫の一部への立ち入りを認め、開架扱いとしたが、新規購入などはしていないため、古い資料が多いのが課題である。

(委員長)

コロナ禍で、集まるのが難しい中で、可能な範囲で運営していただいたという印象を受けた。引き続き利用者が増えるよう取り組んでいただきたい。

(2) 令和4年度の事業計画等について

資料2「令和4年度白馬村図書館事業計画(案)」に基づき事務局から説明した。

絵本のカバーで袋やパズルを作るイベントや、一冊の本を分担して読んで内容を共有するアクティブ・ブック・ダイアログ、総合百科辞典ポプラディアを使った謎解きなどを開催したいと考えている。

ライト文芸コーナーなどを中高生に広く知ってもらうために、中高生向けの図書館だよりを発行したい。

読書通帳を導入して読書意欲を高めてもらうことも検討している。

雑誌について、令和3年度に4誌購入し始め、好評であったため、令和4年度は20誌程度を購入したい。白馬中・白馬高や北アルプス地域の図書館の購入情報も参考にして、資料のとおり検討している。登山やアウトドア、スポーツなどの雑誌は多めに購入したい。

県と市町村の協働事業で電子図書館のサービス開始に向けて検討している。感染症によ

る休館や図書館に行きにくい方へのサービス提供、障害のある方が利用する拡大や読み上げのしやすさ、一人一台端末が配布されている学校教育での活用など、様々な面で活用されることが想定される。小規模自治体で単独導入をするのは難しいが、協働事業に参加することで小さな負担でサービスを提供することができる。令和4年夏の試験運用開始を目標に準備を進めている。今後詳細を詰めて、多くの方に利用していただけるよう周知していきたい。

(委員)

現時点で中高生の来館者数は把握しているか。可能であれば数字で効果を測ってほしい。

(事務局)

統計は取っていない。数えるほどしか来館しておらず、テスト前に勉強をしに来る生徒もいるが、決して多くはない状況である。中高生に期待を持ってもらえるような図書館にしていきたい。

(委員)

読書通帳の取り組みは面白いと思うが、ネーミングを広く募集できないか。

(委員長)

良い動機づけになると思う。印刷は機械でできるのか。

(事務局)

システムを調達すれば機械印字できたり、シールを貼るタイプもあるが、まずはお金をかけずに手書きで始めたい。

本の金額を記載する欄も設けて、購入した場合に比べて支出を抑えて本を読めたという意識も持ってもらえるようにしたい。

(委員長)

池田町は開館記念品に中学生が作った葉を配布したと聞いた。100冊読んだらそういった記念品を配布するようなこともすれば、関わる人も増えて良いのではないか。

(委員)

可能であれば、高齢者や障害者、未就学児等への配慮として大きめの通帳も用意してもらえると良いと思う。また、シールタイプにできれば、不正や間違いを防ぐこともできる。何か記念品を上げれば、それだけで頑張る子どもたちは多いと思う。

(委員)

雑誌のところに「週間金曜日の寄贈を受ける場合」という記載があるが、今はまだ受けていないのか。

(事務局)

寄贈の申し出はあるが、まだ受けていない。全体のバランスなども含めて検討したい。

(委員長)

雑誌については、限られた予算の中でバランス良く選んでもらっていると感じる。

来館者の反応などを見ながら必要に応じて増やすことも検討してほしい。

(事務局)

今後これらの雑誌をずっと買い続けるというわけではなく、定期的に見直しをしていくつもりである。

(委員)

スノーボードの基礎を扱う雑誌が少なくなってきたと思うが、こういった方をターゲットするかによって購入する雑誌も変わってくると思う。来館者のニーズを把握しながら検討してほしい。

(アドバイザー)

電子図書館については、専門書の閲覧と一般書の貸出に分けられるが、専門書の閲覧は県立長野図書館で検討しており、一般書の貸出は県と市町村による協働事業で検討を進めている。システムに係る費用は県が負担し、コンテンツ費用を市町村で負担することを想定している。図書館で扱う電子書籍は、通常に販売している電子書籍とはライセンスの扱いが異なることもあり、まだまだ提供できるコンテンツは限られている。詳細が決まり次第お知らせしていきたい。

(委員)

電子図書館については、使い方がわからない高齢者等への対応を考えているか。敷居を低くするような取り組みをしてほしい。

(事務局)

図書館にタブレットを備えて、使い方を説明する機会を設ける予定である。

ニーズがあればイベントなども検討したい。

(委員長)

せっかく導入しても使われないのでは意味がないので、周知も含めて準備を進めていきたい。

(アドバイザー)

利用者支援や広報も含めて県と市町村で検討している。各市町村の取り組みも共有しながら優良事例を広げていきたい。

(3) 白馬村図書館等複合施設の検討について

(事務局)

委員が決定して年明けに初回の検討委員会を開催する予定であったが、感染症の影響で延期し、3月31日に開催予定である。

12月に図書館等複合施設見学ツアーを開催し、検討委員を務めていただく方や一般の方にもご参加いただいた。

候補地に関する協議や、ふるさと納税を活用した財源確保の準備を進めている。

3月7日にBCウッドによるオンラインセミナーが開催され、白馬村の図書館等複合施設に関して提案をしていただいた。当日参加できなかった方のためにケーブルテレビでも放映する予定であるため、ご視聴いただきご意見があれば聞かせていただきたい。

(委員)

複合施設見学ツアーはどのような感じであったか。

(事務局)

図書館等複合施設検討委員や一般からお申し込みいただいた方も含めて15名程度が参加し、塩尻市のえんぱーく、安曇野市のみらい、池田町のかえで、松川村のすずの音ホール・かがやきを視察した。

人口や施設規模の違いなどもあるが、複数の施設を見学して、それぞれの施設の長短や運営の課題などを聞くことができた。

(委員長)

子育て支援の視点も含めて、図書館とどう融合するかなど参考になった。

様々な点で住民参加が重要で、行政が勝手に作るのではなく、住民が利用したくなるような施設を建設することが大切だと感じた。

(アドバイザー)

塩尻市のえんぱーくでは、子育て支援センターの受付と図書館の児童室を敢えて隣り合わせに作った経緯がある。当初、図書館ではうるさくすると怒られるから離してほしいという意見もあったが、「子どもも含めてみんなで一緒に図書館を盛り上げていきたい。子どもが騒いでも良いではないか」という覚悟を持って隣り合わせにした。

図書館＝静かな場所という従前のイメージを持っている方もいると思うが、県立図書館でも張り紙をしないようにしたり、音に関する注意をしないようにしたり、利用者を信頼して運営している。今後の検討でも、固定観念の強い方の意見もあると思うが、できるだけ柔軟に考えていただきたい。

施設ができてから「利用してください」では難しい。新しい複合施設への期待感をうまくつなげていけるよう、建設前の検討段階から中学校や高校の図書館と関わりを持つなど中高生などを巻き込み、「村が作った図書館」ではなく「自分たちの図書館」と思えるような形にしてほしい。

(委員)

BC ウッドのセミナーでは、配置なども含めて具体的に提案されていた。木造とするのは良いが、カナダの木ではなく、できるだけ地域の木材を使ってほしい。

(事務局)

もちろん可能な限り地産材を使いたいと考えている。セミナーでも、建物の構造によって木材と鉄筋やコンクリートを上手く組み合わせることや、樹種の特徴を上手く使い分けることが重要という話があった。今回のセミナーはあくまでも参考として提案されたものであるため、誤解のないようご理解いただきたい。

(委員長)

建物ありきではなく、維持管理しやすさ、住民の行きやすさや親しみやすさを重視して検討していきたい。

(委員)

ウィスラーに住んでいたことがあり、図書館も頻繁に利用した。滞在者も含めて多くの人が利用していた。ゾーンが明確に分けられていたわけではないが、人の多さの割にうるさいという印象は無く、賑わいと静けさが良い感じに分かれていて居心地が良かった。本を借りるというよりは図書館で過ごすという人が多かったように感じる。

(委員長)

観光地の図書館として参考になることも多いと思うため、今後もいろいろと教えていただきたい。

4. その他

(事務局)

委員の任期が2年であり、先生方の異動も含めてこのメンバーでは最後の協議会となる。至らないことも多々あったが、多くのご意見をいただき感謝申し上げます。

3月31日に図書館等複合施設検討委員会を開催する。傍聴可能で開催したいが、感染警戒レベルが5の状況の場合、傍聴なしで開催するため、ケーブルテレビやホームページに掲載する議事録等で内容を確認していただき、意見があれば随時お聴かせいただきたい。

閉会

松澤生涯学習スポーツ課長兼図書館長が閉会を宣言した。